



『サザエさん』第2巻  
姉妹社 初版発行年 昭和23年4月

日本初の女性漫画家として昭和を駆け抜け、現在も愛される数多くの作品を残した、長谷川町子（大正9年1月30日～平成4年5月27日）。そんな長谷川町子は、菊池寛を「サザエさんうちあけ話」（『朝日新聞』昭和53年4月～11月）で描いています。描かれた寛は、可愛らしく、少しドジ。でも、長谷川町子はそんな寛を、とても尊敬していたことが感じられます。

町子と寛に直接の交流があったかは定かではありませんが、三姉妹であった町子の姉と妹は、寛と縁がありました。姉・穂子は画家を目指しており、挿絵画家として寛に画才を見込まれます。そして寛の「女性の戦ひ」（『婦人倶楽部』昭和13年1月～昭和14年5月）で挿絵画家デビューすると、ほかにも多数の作家の挿絵を描くようになっていきます。一方、妹の洋子は文才を見込まれ、無試験で文藝春秋社に入社しました。

今回の展示では、長谷川町子の自伝的作品である「サザエさんうちあけ話」を中心に、長谷川町子の貴重な直筆原稿・原画を展示し、鮮やかな町子の仕事と、菊池寛と長谷川家の関りをご紹介します。

「サザエさん」に菊池寛登場！



老工、どんな先生？どんなお話？

「サザエさんうちあけ話」第六話（昭和53年5月28日『朝日新聞』日曜版掲載）原画  
画像すべて長谷川町子美術館提供

Special talk

「懐かしくて新しい、長谷川町子の世界」

9月28日（土）13：30～15：00

講師：川口淳二氏（長谷川町子美術館 館長）

橋本 野乃子氏（長谷川町子美術館 副館長、学芸部長）

会場：サンクリスタル高松 3階 視聴覚ホール（入場無料、予約不要）※先着200名様  
長谷川町子・穂子姉妹と姉妹社で共に働いた川口館長と、長谷川町子作品の調査に長年あたってこられた橋本副館長による貴重なお話を、この機会にぜひ！

長谷川町子美術館の  
素敵なグッズたちもやっています！



グッズ制作・提供：株式会社East

※入館料・グッズ共に、現金のみの取り扱いです。

